



地面に大きく亀裂が入った干潟中



約1mも隆起してしまった防火水槽



地面が沈下、地中から砂が噴き出た跡



割れたアスファルトに乗り上げ、動けなくなった軽自動車

砂鉄が採取された地域



砂鉄採掘現場

旭市の平野部は主に砂丘で形成され、地層の中には砂鉄を多く含んでいる。市内では明治から昭和40年代まで砂鉄採取が広く行われ、山林や農地を掘削し

砂鉄を採取した後、埋め戻された。その後人口増大により宅地化が進んでいった(資料:『旭の風土と文化』旭市文書館、『飯岡町史』)。

》インタビュー Interview



黒い水が噴水のように噴き出していました

遠山英夫さん(後草)

地震発生ときは、ちょうど孫(小2)が学校から帰ってくる時間だったので、地震の揺れが収まるのを待って、すぐ孫を迎えに行きました。帰ってくる途中に、2回目の大きな余震があって、近くの集水枡の辺りから水が1mくらい噴き上げました。最初は水の高さも量も少なかったのに、あれよあれよという間に噴水のように噴き出して、その水は真っ黒で30~40分くらい出続けていたと思います。その周りからも水が染み出してきた、近くの道路は、黒い水が大量に流れて、まるで川のようになっていました。揺れがある程度落ち着いたときに周りを見渡すと、道路が波打ったようになっていました。

家に戻ると、自宅が傾いて、ひび割れもすごかった。あのときは「液化化現象」というのが分かってなかったから「この水はどこから出てきたんだ!」と慌てました。

家が傾き、 道路が波打った



道路が完全に陥没し、動けなくなったトラック。地面から噴き出る水

今回の震災による住宅被害3、691世帯のうち、768世帯（1月31日現在）は液状化現象によるものだった。液状化現象は、砂質土に富む地下水位の浅い地盤が、地震動のように繰り返し外からの力を受けることで、砂粒子の間に水が押し上げられ、地下水と共に砂が地表に噴き出てくるという現象。市が平成18年に作成した「旭

市防災アセスメント調査」によると、市内には、液状化の危険度が高い砂質土に富む地質地が多く分布し、特に樁海干拓地の付近は、液状化の危険度が高いとされている。台地と平野の境に建つ住宅にも、液状化現象とみられる被害が多く見られた。また今回の液状化現象では、昔市内で砂鉄採取をした場所で、多くの被害が出ているという証言もあった。

インタビュー Interview



壊れた家をただぼうぜんと眺めていました

高野文子さん(椎名内)

1回目の地震の後、すぐに家に戻ってこようとしたのですが、液状化でいつもの道路がぼこぼこで通れなかったの、遠回りをして帰りました。遠くから家を見ると「あれ？ 斜めじゃないよね」と思って、近くまで来てみると、やっぱり「バキッ」と家が2つに割れたようになっていて「まさか……。夢じゃないよね」って思いました。みんなは津波で学校へ避難しようとしていましたが、私たちはそんな余裕もなく、ただぼうぜんと家を眺めていました。

家の中は、めちゃめちゃで手が付けられませんでした。家が真ん中から折れて、中から星が見える状態。見る影もありませんでした。

ショックで立ち直るのに、日数がかかりましたよね。普通の生活を送っているように見えますが、今でもちょっとした地震でおどおどしてしまいますし、後遺症はかなりありますね。



波打った道路を急ぐ消防車両



地面がゆがみ、家屋が折れ、傾く